

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	のぞみスター		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 10日		令和6年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 10日		令和6年 12月 25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年 12月 10日		令和6年 12月 25日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	(地域の園が) 訪問支援をこころよく受け入れてくれている。	送迎児であればその際の伝達等必要に応じて連携している。	(送迎職員だけでなく) 担当職員や児発管と密に連絡を取り合う。
2	保育所等訪問があることで保護者が安心して併用利用できている。	訪問後の様子や情報を共有するようにしている。	訪問後の共有を変わず行う。また訪問先から保護者と共有できるように伝える。
3	児の状況に合わせた保育所等訪問支援計画書。	保護者の意向や園の状況を照らし合わせて総合的に評価し、作成するようにしている。	保護者や園の状況の聞き取りをもとに作成し、必要に応じて園にも共有していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問回数が少ない。(本当に必要とされている時に行けてないように感じる)	なるべく行事を避けて訪問するようにしていたため、限定的になり、訪問回数が必然的に減ってしまった。	訪問先の行事等確認しながら、計画的に日程を決める。また、必要に応じて密に情報共有ができるような手立てを考えていく。
2	訪問回数が少ないため聞き取りや現状把握だけになるため必要な支援に繋がりにくい。	時間に限りがある中で、内容を精査して支援につながる話し合いの工夫ができてなかった。	該当児の課題点を明確にして、必要な支援を共に考えていける時間を作れるよう事前に課題点等を整理し、優先順位を決めておく。
3	保育所等訪問の事業所でのあり方が明確化されていない。訪問先への保育所等訪問の意味やあり方の理解が告げられていない。	事業所内で保育所等訪問支援についての理解を深めておらず、話し合いが出来ていなかった。	事業所内話し合い、書面を作成し職員間で周知できるようにする。書面などを用意し、年度初めや初回訪問時に説明し、理解につなげていく。